河内新聞　令和8年10月10日（土曜日）

モノづくりを考える！ 第54回

擴製作所　大阪市生野区巽東4-6-6

個人事業主の歩み 前編 ―経済変動を乗り切る―

独立から法人化へ、そして再び個人事業に

邊（ほとり）昌俊さんは1971年に中学校を卒業、金型見習工で働いた。定時制高校野球部エースで大阪優勝を果たし、卒業する時に「金型の道で行く」と決め、20歳から3年間で300万円を貯めて貸工場に入居した。

独立から10年を経て1989年、株式会社を設立するとともにワイヤーカットを購入。1990年代、ワイヤーカットのローンを毎月33万円返している最中にバブル崩壊後の不況が襲った。1993年～1995年が一番苦しかった。なんとか完済した後、マシニングセンタを購入。

これを決意し踏み切ったことが1999～2002年の苦境での受注につながった。徹底的に設備の高度化を推進するだけの気力と体力を有していたことがその後を大きく分けた。

2000年代に入って邊さんは中国製の金型を修理する機会があった。その時に技術水準で中国が日本に迫っていることがわかった。

この時から現在までの20年間で中国の金型生産高は世界の50％以上を占め、日本の製造業は中国の金型への依存度を高めている。

2008年のリーマンショックから半年後に仕事が減り始めた。リーマンショック以来3年間、売上が3割にダウンしたのをなんとか融資でまわしてきた。存続するために出した結論は、株式会社から個人事業に戻して積み立てた退職金等をすべて借入金・住宅ローンの返済に充て、月々の売上で生活費を賄う態勢にすることだった。

邊さんは後継者について「好きな仕事で、しんどいけど張りがあるのなら息子に強く言えるが、無理に無理を重ねてここまで来ているので、後を継ぐよう迫力をもって言えない」と語る。

長男は2014年、中学校の教員になり野球部の顧問をしている。野球は父から子に教え継がれた。

【工場を記録する会　工場兄妹　兄の好行】